



古今著聞集

十九



古今著聞集卷第十九

草木

中九

草木者有時以昔伊姪諾伊姪毋尊既生
木祖句々通馳次生草野始於戲春有楊梅
桃李之花秋有紅菊紫菊之花皆是錦繡之
色酷烈之白也然而昨開今落遲速雖異隨
風任露衰衰不道似樂有焉可觀無常矣

延壽十三年十月十二日山紀云作侍臣令新菊
花者十中分之二處お車勝芳緒以申時各方領
花入一處入自仙苑次牙進花立庭中一處將花以酒酌飛二處栽
二處入自勝口次桶各花人下二人立立也



本代下は思のうらなを了結つてのふゆえとやせ
あまら又や西のほいられうらなを懼まひひやまへ
らまらうらまをばれまらひあまらうらまを
山はあまらあはれうらまらうらまのうらまの
やまらうらま

天曆七年十月十八日あまらの侍信たかまらうらま
まらうらまとまらまらまらまらまらまらまらまら
南代才二のふ出御王御あまの筆子よ作御まら
延元十三年侍信獻菊の目只たまらまらまらまら
一人作御まらお分たかまらまら今日教人既作てお分

とく者大長納を源朝下系儀師氏朝下三念
たかまらた納を源朝下系儀師氏朝下三念
右方とたた菊のまら作御まらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
洲濱まら菊一申候うらまら系儀師氏朝下三念
まらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
一物候まらまらまらまらまらまらまらまらまら
洲濱の風流まらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

おのきくゆかすに家猫よびくちりぞれどそれ
可きぞくこめりきるうとこしれあ産の形風流た
よかりありきり志るうひれ露ふさくはくろえをえ
お紙書くる事なふれおし大尺巻一のさる
ハ者花を振あか加之物産維た久と獻物則
才一花可ぬ九緒作云事理へ仍たうす成または時
大尺産とましく扇方の三郷小罽酒とこねられ
已掃負のるどとけくおんとこねるうとこねる
お紙へえまらるこ花おさやうまきとかる梅さか
ありぞれど作よりて負に如よきり仍た教どけ

才この花たうそまねくら礼殿とらん川を流玉
と奏とね束の松作備島よ中舎人梅を信がつら
まらるこお決た方まの侍長あまおしえ梅舞あり
まらるこ後た方ま相物下た方近光物下お作く
つもの梅くじわあとめさ家とめくとりてまのりて
此産の南産よこうすがあ人とりてあをられり
らとせ梅の志をけつる後いささおけく
さくれんかすそくーかりをれ
石ののむむけのさくいさくか
おきくつらせぬけそんく



ちりあ身下よりさるよ水舟の南多よあつた物也厨子
 一掃いっそうとてくぐんの由事法しんまうとてくぐり或はの
 親い王こお琴えと淨えん一い深か大だい烟えん言ごん器ぎ器ぎと淨えんとてくぐり浄じやう把ば
 とくろくくま御ご下げお祿ろくとてあ又またホほみみららままのりあ
 或は親い王こおふくふくくああのせせききるる親い王こすすかかららああののれれ階かいるる
 よりあよとてくく淨えん系けい一いああひひのりのり南なんののせせ階かいよよるる
 ののぼりぼりくく度どおおほほくくああくくよよああつつたたととりりててはは身みり
 くくぐぐりりままりり細こをを淨えん掃さう頭とうののままああけけをを獻けんととててくくぐぐりり
 ととししれれたり

南多れ様なんたれさまの村むらの西にし射しや或あるはは主しゆ的てき親い王これれ娘むすめのの様さま

南多れ様

南多れ様

まきれど大納言梅のそんらんをゆくらまふふ
いづゆづこしやえれかまの梅と梅との痛みぬく
自余の花のさつづかたふふせり大納言忠と
あしつとく梅とよきれどあつたまのわけがね
紅梅の敷のりまてくまごうとまよれを梅優
あぞゆくるに記よえつとり

昔元元年十二月廿二日昭陽令れさつて成を平塔
深處ひぐさこれ梅よりうとくまきさるはなと
ともおのころく梅といふあさりの奥ありま
ひうらうまらこらほりいこえんはなと

うしきさるらく此のわづりわるまの布はうとく梅
事とせられたるや

永業六年又月又日内裏より葛蒲の指合をせり
はとまに二月梅日延能れよまてひらう梅とり
あし一人あはれりうとく梅ありまきり又鶴合を
まりそ梅ありたふうりて葛蒲の根はあをせり
梅ありたせしきさるは梅永業元年十月
おの儀のこし中宮の御官をれさつとせ給ふ
内大臣親宗の御事梅家大納言信家小野文
中納言兼親の御事梅家大納言信長

二系中物云信忠中云云大史理補た掌ね中お徳忠云
 中將信房之位お將忠忠事ご事り給ひたりたおれ方
 人多おぬんごまのりまのりまのり出海よわがうと信
 忠と後た古れ又基とての言并官人なりまのり南乃
 ひさの産れ赤の方よ赤面の赤あうとまのり剛濱
 とつらりて志らうひれ松原うらう又おれごん
 まのり酒香とて思ねと傳りたてのりまのり
 又報のりまのりあうとてまのりおれとまのりまのり
 書一巻然とく像眼とて紙して多紙形と摸て
 とのくおのり又骨とくまのりまのり紙の産く書紙と

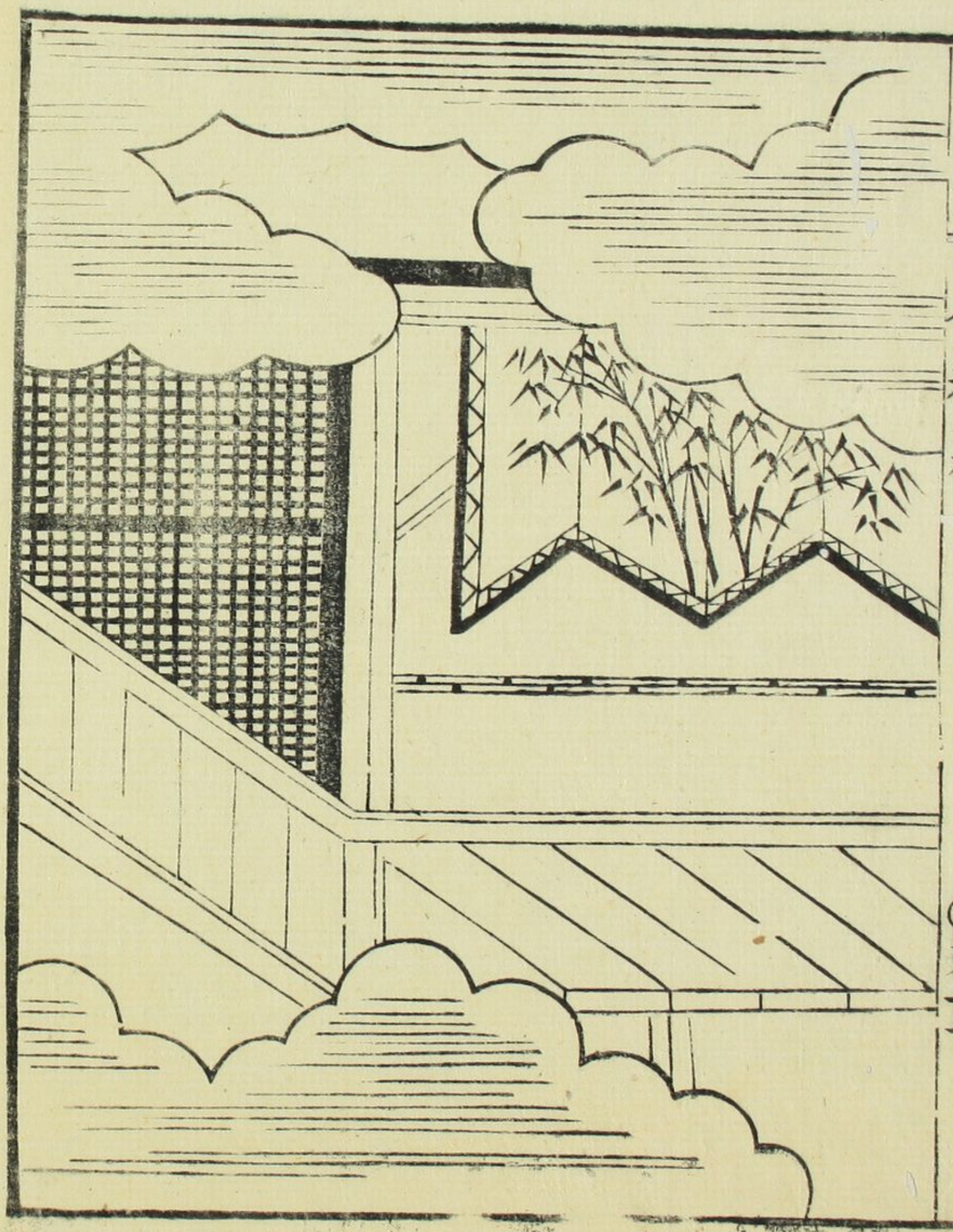
きて叙文あまごみたりと虎魄と袖とてまのり
 とひとまのりまのりまのりまのり何とてまのり
 の産とて信の赤よぬとてまのり根お袖とて
 根の上よとて剛のやりのふとまのりまのりこれ剛は
 あまとまのり又業お又流とて剛のうふとま
 のりまのり赤のまのり上お能つごたうすまのりまのり
 とて剛の産人まのりまのり又基れひごふとてまのり
 おねとまのりまのり高蒲とつらりまのりまのりこれ物
 此よ又赤人志方の又基とてたまのり方言ごまのり
 まのり大報たいとまのりまのり大報とてまのり

小幡常の巻六人としてつらつていそ根の上よまめ
 ありあとういそ根をとしてつれり又兼おがれ根
 とまのていそ根をふさく兼おれ金根をいほ
 まり方の人あれまのあは作もはみ等判れまを
 うの巻人一人にねはうとて又兼おのあれつたを
 とまぬは作まのていそつらつて作とういそ
 のおとまを後作よりいそつらつてた有るお
 れこのつらつていそおの兼おとるてあまのつら
 て兼おつて内大臣方兼おれに佐吉に控捕に後房に
 いた頭乃并控おれ下衣歌乃中將資綱おれとま

又兼おれ下は作といはるよたおのうごれ兼おの
 入も亦は作とていそを二人兼おれの子息といは
 とよ作一より乃并控おれ下兼おれ下とて乃并將
 資綱おれ下兼おれ下とて乃たあひいそつらつて兼おれよ
 作れ控おれ下兼おれ根おれ兼おれ兼おれよ兼おれ
 南のひごまのいそおれいそあうれごれと長みおれを
 わくそふたの根とていそおれ兼おれ兼おれ兼おれ
 但おれいそつらつていそおれいそおれいそおれ
 まきよりと兼おれいそおれいそおれいそおれ
 首とよいそ兼おれ兼おれ兼おれ兼おれ兼おれ

藤原隆俊の下藤原資綱の判者内倉なり
 歌高蒲原公早苗志統くものよみ流りてあり
 ぞれく申の座ふりりつゝはよ後経の由洞なりと
 めは如琴政の筆二位中納言経世の由洞なり
 定家朝下藤原隆俊隆俊の資仲朝下子洞なり
 のら内倉の流事ふりりて勢とてうへは流成なり
 て由座の下ふりりてあまうとまのま上はあえと
 とせおりの判りて後拍子事仕せし流びとて内倉
 長よ作くると長作流成りて座よ神なりとて安名事
 とてあふ流成の流りて流成とて由座とて由座なり





美の退かとなあまの秘の如りさるるや
 經信いさののりの宰相さうざいはぼくへげうけ付八月十八日あり
 統むねの必遣かならず回まわ譯わけのいさの如りさるに夫を月あつて
 なるに鐘かねのあまの如くお柳やなぎわんをり枝葉えだふひらく
 おのひく月つきはるをそまれば人ひとは若くおつめてあらまら
 みるまを切きらうりせし月よむひくおをよもさう
 既すで過すとつたありしへは後のちはあへん夫おののけおまは
 といしおまの如くお今いまのちをせむらう
 堀川ほりがわ院いんのは討うつる月つきは白しろ江え津つ萬ま葉はとあてまら
 ころさる如り

進上

千年八月五日

水邊菅蒲

大江為武

あの城をあたふとてさかへん人ふふあや作しき
まはれ推もさへん推する人あうりまに肺軟を耐
粥がゆとてささひき推がわんぶえとよみゆきる

進上
千年の二月五日 大江為武

蘇我二年八月廿八日上皇も物あふく前裁
ありきり意自ふ首人ささへこれたりとてあふく
人ふふ推もささへん推とてりきささり推申納

云基名ゆとた名の所とてまのく宰相中納宗通に
城あふの所とてささへん人あふ十余人おとせり
南てんの履れたのすは南面の女院の所方なり
りともての奥ありまがたあふんぐあはるおわ
ひよりひとあふは推もささり大臣中納宗通に
あふふさあふあふささり作あふりてあふささり
方入たさのんのりき 蘇我 推申納言 住居
あさひんのりき 蘇我 推申納言 住居
あふハ菅帽子あふささりまがたあふのりきあふさ
とたひりのその作あふりて風流并より守ささり乃

具ハも多クもきり物多ク其も中々毎葉少ク非
 此うとてまゝありきりせんといふあり徳也といふ名
 二人うたゝる階のあふれをなく遠也徳よ丹也を
 やとつらつらこれとてさうざりありきりあよ人
 方人下これ布衣とてきりあふれ方成りたると花并
 掌灯ホ達とてく何別とてうりきり昔掌灯の具
 ハ右方の人よあうとされたりきりあや願めんがが
 くとけきりやいづくとて灯基とてあ上のきり位
 して立させたりきりも後せんといふりぐびつと保
 どとのくあといふらとてありのきりあはれとてい

ませといひとせんといふとてうりきりたもといひ
 其也而也為菊とて後そのきりあれ則今日のおあ
 け部とてぞた方おあ鏡とてあふとていけ鏡たふ
 小あといひとてきりた方これあといふとていけきり
 きりあし脚深咽あい扇也とて中うりきりも後方の
 右位とて申よありておあ鏡とてああよあきりも
 後海脚とてめとた室中右結儀とた名のあよ人
 階といふあといひとてあといひとてあといひとてあ
 一葉海とてうとてあといひとてあといひとてあといひ
 といひとてあといひとてあといひとてあといひとてあ

あまていし無^くなりし^りなりえんや作^によりてあまは
おき成^{らん}が^れお^はる^方持^よさ^りん^く退^由と^た方
た^らお^はる^作ど^てお^き成^成郷^どを^守ら^そ中^た記
よ^んへ^り

長治二年^後二月廿日^わあ^りの^比内^の西^房あ^上人
せ^らく^花成^見たり^さる^小亦^三首^よ一^枝成^{たり}て^まじ^ら
り^一天^親あ^まれ^れ目^くれ^くも^ごり^さり^さら^うん^見
あ^まて^いの^目あ^らと^うら^して^成成^合き^さり^た方
れ^んく^様の^枝を^おて^あれ^ん時^の後^よら^うり^あて^くお^枝
と^えら^びく^とえ^まら^り備^後分^有賢^外拍^子あ^て

橋人^成ら^ひの^後終^まつ^け持^さり^しを^とお^の
あ^まら^うり^うら^くは^らあ^めく^出建^あを^りた^り花
と^まら^りま^れど^よま^らあ^人と^つら^りま^さり^の例^候よ
と^まら^りて^まら^りて^後油^産あ^まと^まつ^て也^物定
あ^まら^んと^つら^りま^らり^のま^らり^の為^記り^んへ^り

嘉應二年^{九月}上旬^中橋^梅桃^李花^実て^まら^の
そ^のれ^がら^くあ^まり^延嘉^九年^{八月}廿^七日^のあ^まり^の
ま^らら^しく^やその^あび^んあ^ち袖^櫛子^ざと^まら^りの^まら^り
あ^まら^りあ^びり^のあ^まら^りあ^まら^りん
又^月の^比あ^まら^り上^人慈^母へ^あま^らり^のあ^まら^り

とびあぐり川に成りてのまほさへてのみほ
りまほ

あつめく懸脚まうてけなりのま

あまらる先とそりのあぐりのま

義元四年正月北陸國裏大炊女 あて(どうき) みて目録とてく添

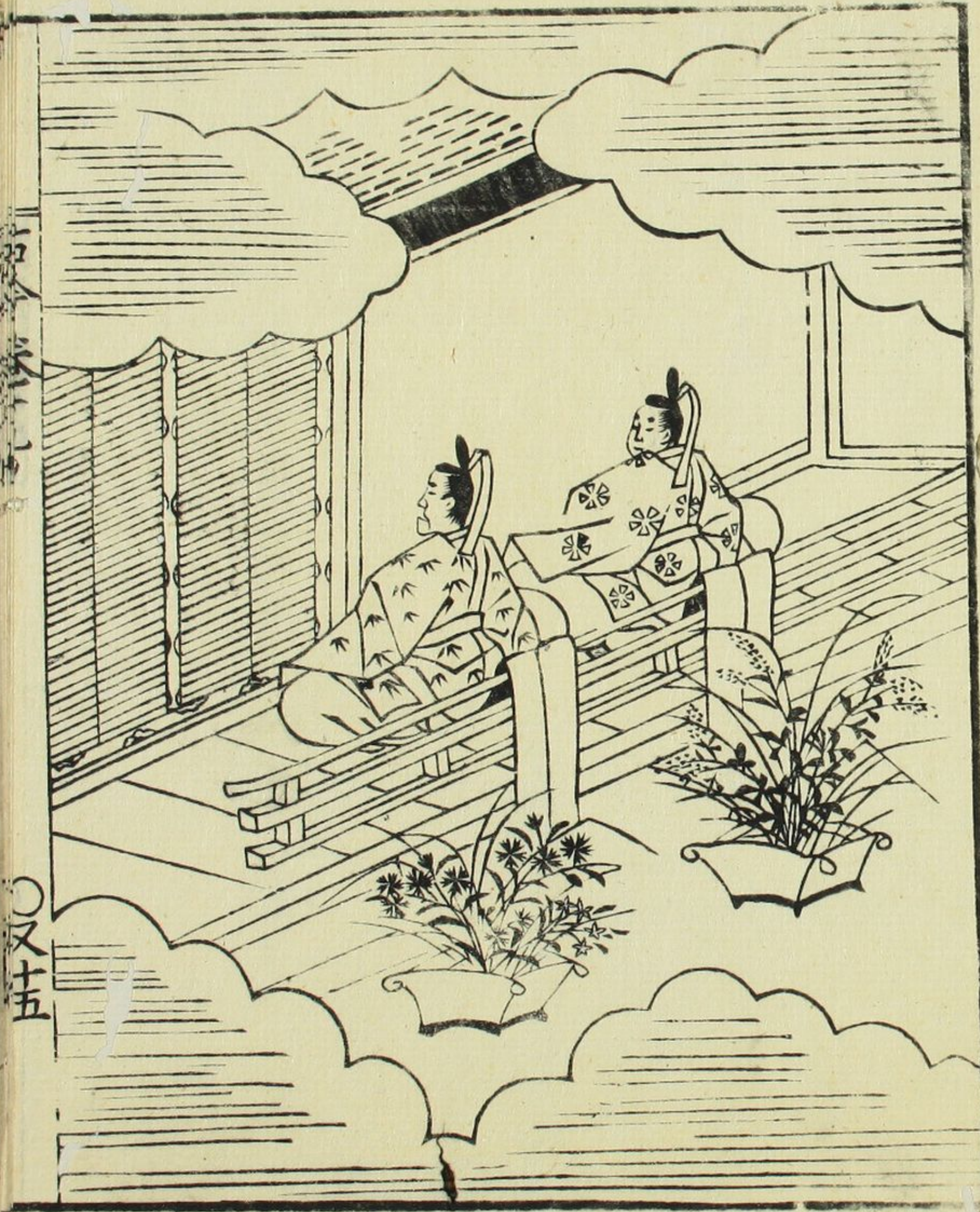
仲朝下藤人町へあまらる大炊女門おりてけ

らんりなえくせわの衣冠の人まどりまな女か

物さる先まあつめと見物まバありのまへうき

へあつめあひのびとく物あまらる侍人か

へあつめんと見物まあつめあつめお下とま





今やあよま糸あひんとあやぐらるに南あ(一)
 けこのの^ヤ前^ハあひの^ハ八重^ハ梅^ハの^ハゆふ^ハい^ハつ^ハり^ハて^ハき^ハて^ハり^ハ也
 の^ハゆふ^ハも^ハあ^ハら^ハぬ^ハは^ハ梅^ハと^ハえ^ハあ^ハげ^ハく^ハや^ハひ^ハく^ハ程^ハ
 侍^ハを^ハあ^ハふ^ハの^ハゆ^ハを^ハえ^ハ枝^ハは^ハき^ハて^ハせ^ハて^ハあ^ハら^ハる^ハそ^ハの^ハ枝^ハと
 絶^ハの^ハ袖^ハと^ハい^ハあ^ハな^ハし^ハあ^ハあ^ハり^ハこ^ハの^ハあ^ハ何^ハと^ハい^ハあ^ハる^ハ縁^ハと
 優^ハよ^ハえ^ハん^ハれ^ハぬ^ハも^ハあ^ハら^ハを^ハひ^ハら^ハじ^ハて^ハぞ^ハり^ハ也^ハと^ハ書^ハす
 て^ハつ^ハぎ^ハよ^ハに^ハせん^ハと^ハく^ハし^ハを^ハき^ハる^ハあ^ハそ^ハや^ハゆ^ハて^ハい^ハて
 も^ハあ^ハら^ハる^ハい^ハの^ハあ^ハら^ハぐ^ハ一^ハつ^ハあ^ハら^ハの^ハあ^ハき^ハれ^ハど^ハ女^ハ房^ハ伯^ハ耆^ハ紅^ハ
 の^ハう^ハす^ハや^ハう^ハま^ハ書^ハて^ハつ^ハり^ハい^ハせ^ハぬ
 かね^ハ名^ハそ^ハの^ハら^ハふ^ハと^ハう^ハひ^ハあ^ハ八^ハ重^ハと^ハう^ハ

うんなんやふくれーをせー

あー

海にわくと君よつふるぬきや

唐へくさるれげとてあふ

順徳院中尉十月廿二日付信書お定書お定書お定書長素
内へそあく鬼の同よてなまやうくうれ物くひて
さあひひるあふ海あより前徳さる状のふり
さくさく後あーる種紙とさくさくこのむ紙一えご
今もあふさくまのせよとてさ東内信よりさく
出されぬりぬれど定書お定書お定書お定書お定書

為者への信紙作りて有りさるとなりんて真のまへ
くごんの物さくさくさくさくさくさくさくさくさく
ゆごさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

同海尉内書よて花あをせぬさくさくさくさくさく
とわさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
海あを人へてかをて南西に池のさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
うんなん鼻のあやさぬさくさくさくさくさくさく
あうさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

恭定法皇二月廿八日御幸(葛蒲)と云ふは
よみゆりもる

つらなるそわやあれから紙の巻

らあさるさや川いづれとて

後醍醐院の所付嘉祿二年九月十日御幸(葛蒲)御
宣下(のり)職事(しやく)まのりて出陣(しゆじん)す川(がわ)に
く(の)間(ま)ふ(り)あ(り)居(て)何(に)船(ふね)を(つ)け
ま(り)に(大)艦(せん)あ(り)内(うち)に(は)りて(は)りぬ(れ)る(ま)る(り)と(い)ふ(ま)る(り)
り(と)あ(り)の(ま)る(り)あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)
う(ら)も(の)り(あ)り(と)あ(り)の(ま)る(り)あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)

備前(びぜん)の(ま)る(り)あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)
ふ(り)あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)
あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)
あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)
あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)
あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)
あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)
あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)
あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)
あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)あ(り)ひ(と)る(ま)る(り)

きるた今 芥子

お船一枚浴してはて本の葉はあつた

あしそそ秋はく先なりりまき

せつををねもくくつりせりなるべ

二品時愛のあきのうぢの後ゆきまのまのま鞠まりのからん柳やなぎのま

まきりそ内成美のすまはよ鳥すまひはきり

いごおひひんちうすそす成とびくひひり

柵しほりの本よつちりせりんこわやこわらきり

一ありとけく雲白飯より柳とめられたりまきり

とれた地あよひきりりきりりけりまきり

ひう門くはあきせけりりまきりすまはひひり

いづきあてもくくひくわりてまきりひひり

まはゆりひひりひひりひひり柳のうら二本と

かりてまきりちのすのまひひりまきりひひり

てざり鳥とりのひひりまきりひひりまきりひひり

一葉あふりりまきりまきりまきりまきり

それよなまよ今まきりまきりまきりまきり

はくおさるまきりまきりまきりまきり

柳やなぎの柳とまきりまきりまきりまきり

まきりまきりまきりまきりまきり

建永元年二月前大坂大官あよりき河のくばい
内裏までゆきるころ一階をむころりなるより
あつり人としてその御のまふじよび付をせしむる
内前

あも香もくころそめ御之御のまふ

ぬきふなる本よのころり

あつるもより作紙をけ給と御をわあころり
わあしこつすけ隆祐部下白河のむきでよりり付た今
あよまうり付あしむさかひをねだるふく家事ふ
かまへえあんとりあふまじりうりまねたよわ

みつりりける

うらうらあるむいらをの物あまこ

らるあれのむきとらまけとそあつふ

あしははゆいとすき付ふきり

金堂えんどう院よりみわてく梅をうらむ色付りしに

ひまひ付付りあ

あつるあうりそふる八重ころり

ころりそあ代のまふあつと

松樹まきぼと真木まぎといあゆみ海よりくんのあふふの

まは真あるにハわら御お若れをげしあつと

とわらふあはれりもみどりなれどこれを身にた
めたる身は八年のさびさひゆるとれ名長八玉乃
わかろふ小八玉と瀋安にが西征賦よりけれと
あのをとけなり

菱家老宰府小八玉一老一毎らきるは

こらあはめわひてこそよ梅のこふ

わがしめりてまかすれそ

まよみとさほひくまよみ城のぞくはらまうり
まひくのらうれ紅袖魚の梅は片えさ梅り
ひふほひく

梅のさよのむれ物のおせなりきは

いんげりーのこら城といま

やまがめさほひよりきれどこの本

先久於故宅

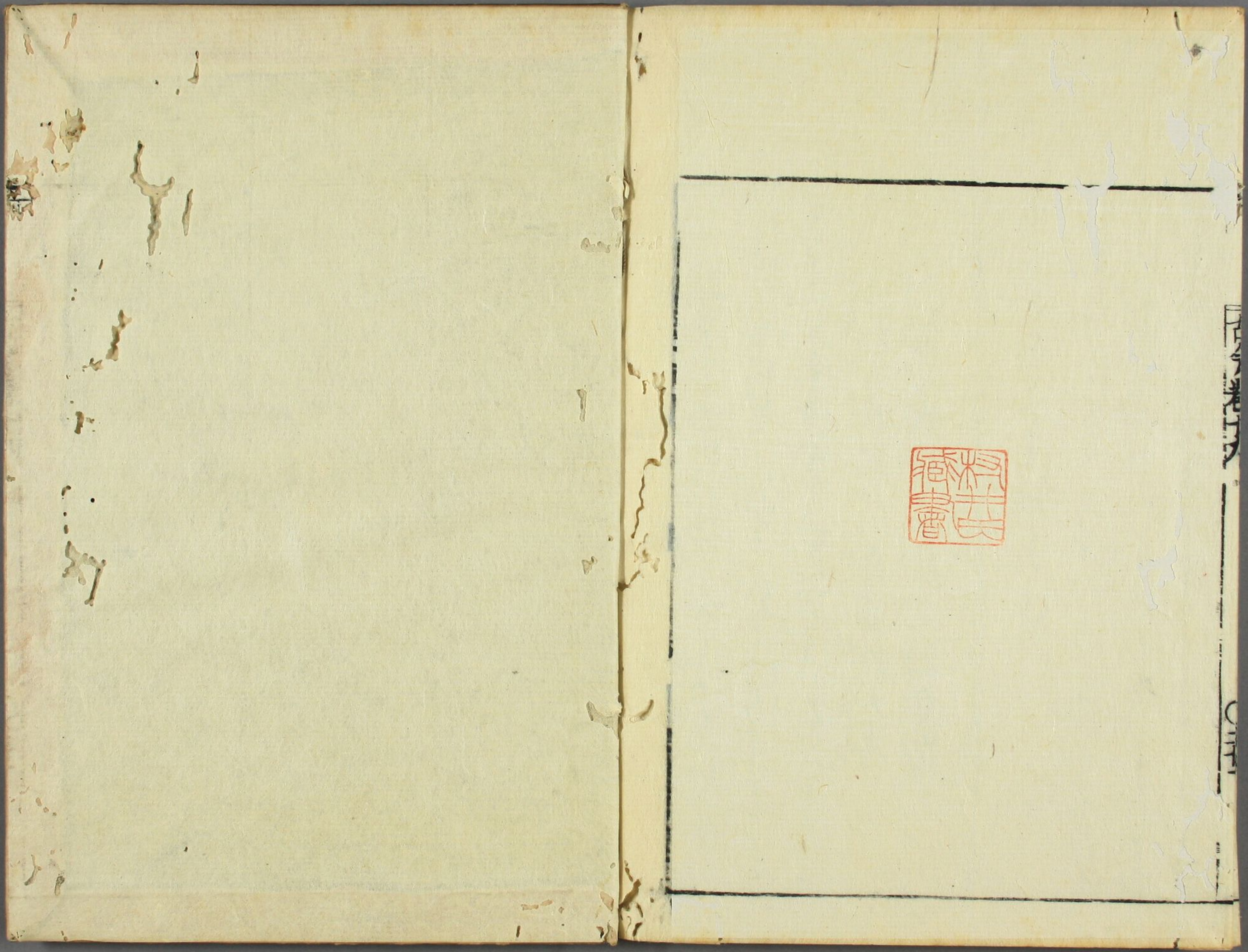
廢籬於久年

麋鹿於佐野

無主又有花

あつ海毛おとさむおつと
あつ海毛おとさむおつと
あつ海毛おとさむおつと

古今著因集卷之十九終



德春藏印

